

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	第6回福津市共働推進会議
開催日時	令和5年3月22日（水）午後1時35分から午後3時まで
開催場所	勝浦郷づくり交流センター
委員名	（1）出席委員 嶋田 暁文、依田 浩敏、奥 弘子、小林 真理、富松 享一、中川 孝晃、三ッ橋美津子、山口 覚、山田 雄三
所管課職員職氏名	理事兼まちづくり推進室長 香田 知樹 まちづくり推進室参事 石井 啓雅 まちづくり推進室市民共働推進係長 井上 真智子 まちづくり推進室郷づくり支援係長 向井 恭子 まちづくり推進室郷づくり支援係 品田 裕輔
議 題 (内 容)	・地域視察
	公開・非公開の別 <input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由 福津市附属機関の会議の公開に関する要綱第2条第1項第3号に該当するため
	傍聴者の数 0名
	資料の名称
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
	記録内容の確認方法 委員による確認
その他の必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 協議会の概要や地域特性について

協議会役員より、下記のとおり説明があった。

●11月末時点で、勝浦地域の人口は1,075人、世帯数は512世帯、高齢化率は43.6%となっている。ただし、世帯数は世帯分離などもあるので、実際は400世帯ほどではないかと思う。高齢化率はかなり高くなっている。

●勝浦地域は農業を中心とした過疎地域で、少子高齢化が進行し、人口も減少している。また、新原・奴山古墳群や白砂青松の海岸など自然環境にも恵まれており、古くから受け継がれてきた神社や伝統芸能を脈々と継承している地域である。

●地域内には6つの自治会があり、最大で約90世帯、257名の自治会から最少で45世帯、106名と都市部に比べて小規模であり、個々の自治会で課題を解決するには自治会の役員の負担が大きくなるため、郷づくり推進協議会が勝浦地域全体として各自治会と共働で地域課題の解決に取り組んでいる。

●協議会は運営委員が76名おり、そのうち役員は会長以下19名で構成している。自治会長は役員に名を連ねているが、ほぼ100%1年で交代される。

●郷づくり交流センターに隣接する勝浦小学校は小規模校で、特別認可制度による校区外通学が認められており、半数以上が校区外からの児童となっている。

●協議会には防犯・防災部会、健康・福祉、環境・景観、活性化・交流の4つ専門部会と広報委員会があり、各事業に取り組んでいる。各専門部会には正副部会長の他に運営委員が部会員として所属している。複数の専門部会に所属している運営委員もいる。広報委員会は会長以下7名で構成されている。

●健康・福祉部会で毎月第4木曜日に健康サロンを開催して、介護予防や健康づくりに取り組んでいる。その際、地域にあるデイサービスセンターに協力いただき、健康サロンの中で行うレクリエーションを担当いただいている。

●交通不便地域であるため、健康・福祉部会では1年間を通じて70歳以上の高齢登録者に月2回の小型タクシーの初乗り基本料金の640円を補助する「高齢者タクシー助成」にも取り組んでいる。

●環境・景観部会では世界遺産の構成資産である新原・奴山古墳群の周りの畑に1年間を通じてコスモス、ソバ、菜の花の種を蒔き、散策路沿いには彼岸花の球根を植えて管理し、来場者に開花を楽しんでもらっている。この事業は市の文化財課との共働事業である。

●活性化・交流部会では、1年間を通じて勝浦地域を活性化させ、勝浦小学校児童や津屋崎中学校生徒との交流につながる郷育カレッジふくつ散歩勝浦編や、地域と小学校の共働による勝浦大運動会やマル勝まつり、地域に賑わいをもたらすマル勝イルミネーションを行っている。

- 活性化・交流部会では小学4年生から6年生を対象とした寺子屋事業を毎月第3木曜日に開催している。
- 広報委員会では毎年3回会報を発行し、地域内の各世帯と小学校の保護者に配布している。
- 広報委員会では今年度、勝浦PRカレンダーを作成した。これは地域内に呼び掛け、写真の提出を受け、暦の上部に写真を掲載したオリジナルカレンダーである。このカレンダーについては地域のPRを兼ねて、地域内の各世帯に配布した。
- 防犯・防災部会は児童の定期的な見守り、さらに全市一斉防災訓練の際に勝浦小学校の体育館で、地域住民のかたや小学校の児童に参加していただく2次訓練を実施している。その際は、津屋崎中学校のボランティアの協力をいただき、防災非常食の炊き出しなどを行っている。

2. 共働推進会議委員からの質問及び意見交換

委員より下記のとおり質問を行い、協議会役員から回答を得ると共に意見交換を行った。

【会長からの協議会に対する質問】

部会が4つあって、会長と副会長がいらっしゃるということだが、それぞれのようなかたが部会長などをされているのか、また女性の割合について教えていただきたい。

【協議会からの回答】

- 4つの部会だが、部会長及び副部会長は運営委員の中から選ばれたかたで、これまで郷づくり活動に長年携わったかたを中心に選定している。
- 女性の割合については、大変少ない。広報委員会では会長以下7名の中に事務局員を含めて2名の女性がいるが、部会長や副部会長には女性はおらず、運営委員の中に数名程度というのが実態である。

【会長からの協議会に対する質問】

運営委員は76名で、役員は自治会長などを含め19名ということだが、運営委員の中に19名の役員が含まれるという考え方でよろしいか。

【協議会からの回答】

- お見込みのとおりである。

【会長からの協議会に対する質問】

役員の中に女性はいないが、運営委員の中には数名いらっしゃるということよろしいか。

【協議会からの回答】

- お見込みのとおりである。

【会長からの協議会に対する質問】

運営委員の年齢構成はどうなっているのか。

【協議会からの回答】

- 年齢構成についてはほぼ65歳以上が中心である。
- 小学校の関係でPTA会長やアンビシャス広場の代表のかたなど若い世代のかたにも運営委員になっていただいているが、ほとんどは65歳以上である。

【会長からの協議会に対する質問】

運営員会の構成についてだが、自治会長以外やPTA会長、アンビシャス広場の他にどのようなかたがたがいらっしゃるのか。

【協議会からの回答】

- PTA会長やアンビシャス広場代表はあて職になる。
- これまで郷づくりの取組に関わってこられたかたに残っていただいている。例えば、民生委員のかたに運営委員をお願いしているが、民生委員を辞めても残っていただいて運営委員としての活動をお願いしている。あるいは以前自治会長をしていたが、郷づくり活動に熱心に取り組んでいただいたかたにお願いして残っていただいている。

【会長からの協議会に対する質問】

運営委員は76名ということだが、そのような仕組みがあるのであれば、運営委員は年々増えているのか。

【協議会からの回答】

- あまり人数に変わりはない。何年か残っていただいたかたでも、勝浦地域は農業が盛んな地域なので、仕事が忙しくて運営委員を辞められるかたもいらっしゃる。
- 辞められるかたがいらっしゃる場合は新しいかたになんとかお願いをして補充しているので、70数名という数字はあまり変わらない。

【会長からの協議会に対する質問】

19名の役員のうち6名は自治会長だと思うが、残り13名は固定されているのか。

【協議会からの回答】

- 今のところ役員の任期は2年で、令和3年度～4年度は据え置きになる。令和5年度からは更新になるが、今のところ自治会長以外はそのまま残っていただくことになると思う。

【会長からの協議会に対する質問】

郷づくりの取組が始まって随分経つと思うが、世代交代は進んでいるのだろうか。

【協議会からの回答】

- 世代交代についてはどこの郷づくり地域もそうだと思うが、それが課題に

なっている。

【会長からの協議会に対する質問】

自治会との連携や関係性について、役員には入っていただいているが、他方では自治会長は1年交代であることから、会議には毎回出てきていただいているがそれ以上のことは難しいといったことはあるだろうか。そのことについてはいかがだろうか。

【協議会からの回答】

●自治会長は1年で交代されるが、交代した後も1年は運営委員として必ず残っていただいている。そのうち1名には防犯・防災部会の副会長になっていただいている。

●郷づくりの取組が始まった当初は、市としては自治会の参加を必ずしも求めていなかったが、勝浦地域は郷づくり制度が発足した当初から、自治会へ協議会への参加をお願いしていた。

●自治会から協議会を頼っていただくこともあれば、協議会が自治会と一緒に課題解決に当たることもある。

【会長からの協議会に対する質問】

協議会が自治会活動に協力しているということだが、具体的にどのようなことをされているのか。

【協議会からの回答】

●自治会長はそれぞれの自治会の中で道路や水路の修繕やカーブミラーなどの交通安全施設の設置が必要になった場合、市役所に要望書を提出して改善してもらおうという手続きを取る。しかし、自治会長は1年で交代されるので書類の書き方に慣れていないため、依頼があれば書類作成のお手伝いをする。

●勝浦地域は市役所から遠いので、急ぎでなければ事務局で市への要望書をお預かりして2週間に1回、市役所で事務局員会議があるので、その際に渡したり、郷づくり支援係の職員が来た時に渡したりしている。

【会長からの協議会に対する質問】

自治会側から協議会への協力については、役員を出すということ以外にどのようなことがあるのか。例えば、行事への参加や声掛けなどがあるのか。

【協議会からの回答】

●協議会として動員形式は取っていないので、行事がある時はチラシなどを配っていただいたり、自治会が所有している有線放送を使って呼びかけをしてもらったりしている。

【会長からの協議会に対する質問】

先ほど自治会長は1年交代だが、翌年も運営委員として残っていただいて副会長をされるというお話があったが、どのような役に就いておられるのか。

【協議会からの回答】

- 主に防犯・防災部会に所属して、その中の1名に防犯・防災部会の副部長になっていただいている。
- 残りの5名のうち2名は監査委員に、3名は一般の運営委員になっていただいている。

【会長からの協議会に対する質問】

自治会長には少なくとも2年間は協議会に関わっていただくという仕組みがあるということでしょうか。

【協議会からの回答】

- お見込みのとおりである。

【会長からの協議会に対する質問】

そのような仕組みがあれば引継ぎもスムーズにできると思うのだが、いかがだろうか。

【協議会からの回答】

- お見込みのとおりである。

【会長からの協議会に対する質問】

2週間に1回開催される事務局員会議とは、役員の会議ではないという理解でよろしいか。

【協議会からの回答】

- 8つの郷づくり推進協議会から事務局員が集まる会議である。

【会長からの協議会に対する質問】

例えば、今後このようなことを協議会でやっという意思決定の場などの会議はどのくらいの頻度で実施されているのか。

【協議会からの回答】

- 定期的な会議の場は設けていない。
- 月に1回自治会長も含めて役員会を行う地域もあるが、勝浦では不定期開催で自治会長も含めて参加いただくのは年に3回から4回である。
- できるだけ不要な会議は省いて、少しでも役員の負担を軽くするように考えている。

【会長からの協議会に対する質問】

世代交代が課題であるとお話があったが、若い世代へのアプローチなどは行っているのか。

【協議会からの回答】

- そこが課題であると認識している。

●他の協議会では子育て支援部会で子どもや保護者を対象にした事業を行っているが、勝浦は地域内の子どもの数が少ないため、子育て支援部会を設けず、活性化・交流部会の中に子育て部門を含めている。

●令和5年度からは地域内の子ども会育成会が上部団体の津屋崎中校区の連合会から外れたので、子ども会部門を活性化・交流部会の中に設けて、協議会で子ども会に関する事業の面倒を見ていこうという方針を持っている。その中で子ども、保護者、郷づくりの役員など多世代の交流を持ち、保護者の中から郷づくりの活動に関わってくれるかたを見出していきたいと考えている。

【会長からの協議会に対する質問】

子ども会が上部団体を外れる経緯を教えてください。

【協議会からの回答】

●勝浦地域では6つの自治会のうち、4つにしか子ども会がない。

●子ども会の役員を引き受けた場合、数年に1度上部団体の役員が回ってくることになり、さらに数年に1度福津市全体の役員が回ってくるようになる。こういったことで「負担が大きい」という話を聞いていた。

●協議会としては子ども会の面倒を見るという方針を持っていたので、保護者が協議して今回の決断をされた。

●宗像市は福岡県にある上部団体からも外れていて、それぞれの子ども会は地域コミュニティが面倒を見て事業を展開している。

●勝浦地域は人も少ないので、保護者の負担を軽くするためにも、協議会で子ども会の面倒を見ようということで、それを受けて保護者も中学校区の子ども会から外れるという決断をされた。

●勝浦地域内には小学1年生から6年生まで合わせて30人くらいしかいない。

●地域内の6自治会でみると子どもがいない自治会もあれば、いても最大5人くらいしかいない。そのため、若い人といっても地域には限りがあるのが実情である。

●勝浦地域では、直接若い人と交流していくというよりも、コミュニティ・スクールである勝浦小学校での活動を通じて、子どもや保護者と交流していく方が合っていると考えている。

●運動会やマル勝まつりがその例である。また、豊山神社のお神輿行列があるが、その時の御神樂は子どもたちがいないと成り立たないので、地域と子どもたち、神社会が皆で一緒になって取り組む。このように他の地域と比べても、子どもたちと地域が触れ合う機会は多いと考えている。

【会長からの協議会に対する質問】

若い人たちへの広報として、LINEなどのSNSは活用されているのだろうか。

【協議会からの回答】

●SNSは活用していない。使い方がよく分からない。

【会長からの意見】

- 地域によっては、SNSの利用方法がよく分からないので、若い人に教えてもらうことで、若い世代とつながる良い機会になるので、若者と交流するためのツールとしても活用しているところがある。
- 私たちの世代にとっては難しいことでも、若い人にとっては簡単なことで、その程度だったら協力しても構わないという人はいる。
- 若い人は一回、協議会等の活動に関わってしまうと引きずり込まれるという恐怖感がある。しかし、役割を限定して関わってほしいという関わりやすくなり、SNSはそのきっかけにしやすいのでぜひご検討いただきたい。

3. 郷づくりの新しい取り組みの必要性について

協議会役員より、下記のとおり説明があった。

- 新しい取り組みは行っていきたいと考えている。
- 若い人という言葉がよく出てくるが、勝浦地域に若い人は少ない。若い人との交流は課題であり、必要だと思うがそれに拘ってしまうと事業が進めにくくなってしまう。
- 協議会の新しい取組として、健康サロンや寺子屋授業、勝浦のPRカレンダーの作成を行っている。これらは事務局主導で企画・運営を行っているので、学生などの若い人は関わっていないが、勝浦大運動会やマル勝まつりの司会進行などを市役所の担当職員や研修職員に任せるなど、他の郷づくり地域よりも経験を積める機会を設けることができている。
- しかし、いつまでも事務局主導の企画・運営では、事務局に負担が集中してしまうので、部会の皆さんの関わりの比重を上げていく必要があると思うし、会長もそのように考えておられる。
- 後継者育成の取組については、勝浦だけではなく、協議会全体の課題だと思うので、まちづくりや地域づくりをやってみたいと思うかたを郷づくりにつなげるような仕組みを市の施策として取り組んでいく必要があるのではないかと考えている。
- いろいろな地域の行事を協議会が中心となって行っているが、学校や様々な団体と一緒に活動を行っている。特に運動会やマル勝まつりに中学生ボランティアが毎回30人以上参加してくれる。
- この地域は小学生のうち地元の子どもが30人、地域外の子どもを入れても70人くらいで、イベントの時は保護者も含めほとんど朝から出ずっぱりということになるが、会場の設営などのほとんどは中学生のボランティアがしてくれる。
- 中学生のボランティアには勝浦小学校を卒業した地元の学生もいれば、地域外の学生もいて、行事の時は皆が駆け付けてくれる。そのような非常に良い関係ができている。
- 地域の過疎化が随分進んでいる。そのため、郷づくりの一番の課題は、運営委員の中の役員のうち10数名が固定化されていて、年齢を重ねてリタイアすると、役員の数も減っていくことである。
- 自治会長を経験した人のうち、やる気のある人が数年に1度協議会に入ってくれることもあるが、このように老人力も低下していつているという現状

がある。

●4部会があり広報委員会もあるので組織図的にはしっかりしているように見えるが、顔ぶれは皆一緒に中身もほとんど事務局任せになっているのが実態である。

●部会が自立して、部会が中心になって活動を進めていくことが求められるのだが、結局最後は人間になってしまう。

●新しい人に協議会に入ってもらいたいが、自治会長を交代しても、再雇用などで働く人や家業である農業が忙しいという人も多く、協議会が年配者の集まりになっている。

4. 共働推進会議委員からの質問及び意見交換

委員より下記のとおり質問を行い、協議会役員から回答を得ると共に意見交換を行った。

【委員からの協議会に対する質問】

部会の活動が事務局任せになっているというお話があったが、その原因として部会に事業の企画ができる人がいないということがあるのだろうか。何が問題で事務局任せになってしまうのか、教えていただきたい。

【協議会からの回答】

●勝浦郷づくりでは発足当初から「事務局が汗をかこう」という方針を持っていた。そうしないと地域の人たちがついてこないだろうということで、事務局が中心になって協議会を運営していた。

●そのような経緯があり、各部会に運営委員もいらっしゃるが、事務局が中心になっている。

●これについては良い点もある。部会の垣根がないので、大きな行事をする時は部会を越えて草刈りなどいろいろなことに携わってもらえる。

●しかし、いきいき健康サロンを健康・福祉部会で実施し、部会員の皆さんは運営スタッフとして関わってくださるが、脳トレの問題を作ったり、パソコンを使ったりする作業は事務局が行っている。

【委員からの協議会に対する質問】

事務局で企画などを考えて決めて、それが部会に降りていって部会の活動となっているということか。

【協議会からの回答】

●お見込みのとおりである。事務局長のお話のとおり、実質自立した部会がない。組織図としてはしっかり部会があり、部会長も副部会長もいらっしゃるのだが、今までやってきたことをスタッフとしてお手伝いするというのが実態になっている。

【委員からの協議会に対する質問】

部会のかた自らが主体的に動かしていくというよりも、お手伝いという感覚になっているということだろうか。

【協議会からの回答】

●何が主体的な中身なのかということもあると思う。今やっていることは自分がやらなくても活動は進んでいくので、それ以上に主体的な関わりをしていこうと思えば、全然違うことをしなければならなくなる。

●そうなると部会のかたも体力的に大変になるし、役員としてもそこまでお願いするのは気が引けるので及び腰になる。負担が増えると、部会のかたも出てこなくなるのではないかと懸念している。

【委員からの意見】

●現場のことを気にしながら協議会活動を進めているということが伝わってきた。

【協議会からの意見】

●運営委員のかたは大きな行事の時は本当に熱心に出てきてくださる。「自分たちのまつりだ」という思いで参加してくださっていると思う。

【委員からの協議会に対する質問】

運営委員は76名で、その中には複数の部会に関わるかたもいらっしゃる、大きな行事の時には部会を越えて協力する体制があるとお聞きした。運営委員には自治会長経験者や民生委員など、地域の役を担っているかた以外に純粋なボランティアとして協議会に関わりたいと参加しているかたはいらっしゃるのだろうか。

【協議会からの回答】

●地域の役などに関わらず、手を挙げて参加してくださっているかたもいらっしゃる。

●ほとんどがそのようなかたで、特に固定化されている人は手を挙げて参加されたかただと思う。

●運営委員をそれぞれ部会委員として割り振っている。その中には2つの部会に属している運営委員もいる。

●自治会長も運営委員になっていただいているが、複数の部会に入っただいているかたもいらっしゃる。防犯・防災部会は自治会長でなければなかなか取り組みができないということもあるし、活性化・交流部会もそうである。

【委員からの協議会に対する質問】

運営委員会は不定期で開催されているのか。

【協議会からの回答】

●マル勝まつりのような大きな行事の時に全体運営委員会として、運営委員に集まってもらって、役割分担などの説明を行っている。

【委員からの意見】

●私が知っている組織の運営委員会とはかなり異なるやり方だと感じた。

【協議会からの意見】

- 全体で集まる時は部会の垣根を取り払ってもらっている。

【委員からの協議会に対する質問】

部会長や協議会の役員も位置付けとしては全て運営委員という理解でよいか。

【協議会からの回答】

- お見込みのとおりである。

【副会長からの協議会に対する質問】

いろいろな活動をしていく中で他の郷づくり推進協議会と連携したり、交流したりすることはあるのか。

【協議会からの回答】

- 防犯・防災部会で、全市一斉防災訓練の際に津屋崎中学校の中学生ボランティアに参加いただくので、中学校区内にある勝浦、津屋崎、宮司の3つの協議会と中学校で連携に関する協議の場を設けている。

【副会長からの協議会に対する質問】

そのような場で問題が発生したことはあるか。

【協議会からの回答】

- 各郷づくりの中でも得手不得手がある。勝浦の場合、中学生ボランティアは30名ほどの参加のため、役割分担なども決めやすい。しかし、津屋崎や宮司は何百名もの中学生ボランティアに協力してもらう関係で、役割分担など運営が大変なのではないかと思う。

●今後は、中学生ボランティアの力を活用する訓練の方法だとか、勝浦がこれまで培ってきたことを出していくなど、連携を深めていく必要があると感じている。例えば、防災訓練の2次訓練で〇×クイズをしたとする。〇×クイズだと子どもから大人まで参加できるし、実際にそのようなことを取り入れているコミュニティもあるので、そういったことを参考にすると共に、津屋崎郷づくりなどにも「このような取組を取り入れたらどうだろうか」と提案していけたらいいのではないかと考えている。

【委員からの協議会に対する質問】

中学生ボランティアという言葉が何度も出てきて、中学生が活躍していると感じる。このかたがたは、マル勝まつりや運動会に積極的に参加してくださるとのことだが、若い人たちの組織づくりのようなものはあるのか。

【協議会からの回答】

- 津屋崎中学校には元々、地域にボランティアとして積極的に関わっていかうという方針がある。
- 津屋崎中学校は津屋崎小学校や宮司郷づくりなどにおいてももしっかり関わ

っている。津屋崎郷づくりや宮司郷づくりでは松林清掃に参加している。

【委員からの意見】

●中学生が郷づくりに関わっていくことで、人が育っていくという流れがとても良いと思う。

【会長からの協議会に対する質問】

他の協議会では小中学校の校長先生や元校長先生などが関わることで、学校との連携が図られているという事例があった。勝浦郷づくりには学校関係者のかたは協議会に関わっているのだろうか。

【協議会からの回答】

●運営委員の中には小学校の校長、教頭、主幹教諭の3名に関わっていただいている。ただ、上西郷郷づくりのように全ての先生を部会にはりつけるといったことはしていない。

●事務局長が学校運営協議会の会長をしているので、学校と連携しやすい環境にある。運動会の種目の打ち合わせもスムーズにできるし、古墳公園の種まきにも多くの子どもたちが参加してくれる。

【会長からの協議会に対する質問】

お話を聞いていると、学校との連携がしっかりできているのは小学校に伝統があるだけではなく、人的なつながりがしっかり構築されているからだと考える。

事務局のかたが中心になって動いておられるということで、いくつか質問させていただきたい。事務局長は事務局に入られて何年目なのか教えていただきたい。

【協議会からの回答】

●事務局長は4年目である。

【会長からの協議会に対する質問】

その前のかたは長く事務局員をされていたのか。

【協議会からの回答】

●当初は再任用職員を郷づくり推進協議会に配置していた。その後、地域で事務局員を雇用する仕組みになった。

●再任用職員の任用期間が終わった後に、3年間ほど挟んで私が事務局に入った。もう1人事務局員がいるが、そのかたは地域での雇用が始まってからずっと事務局員を続けている。

【会長からの協議会に対する質問】

事務局は2名体制で運営しているということでしょうか。

【協議会からの回答】

●お見込みのとおりである。事務局長が役所のOBなので、自治会の方も困りごとや要望などがあればまずは協議会に聞きに行こうということが習慣化

している。

●自治会長も毎年変わり、書類の書き方など不慣れなことが多いので、自治会長向けの説明会も協議会内で実施している。自治会長の皆さんとは1年の付き合いがほとんどだが、協議会のことを頼ってくださっている。

【会長からの協議会に対する質問】

活動を通じて出てくる課題として、他の協議会では土日に貸し出せないといった施設の使い方や交付金の使い勝手の悪さ、協議会で稼ぐシステムがないといったことが挙がっていた。これらのように各協議会で活動していくうえでのネックになっていることが挙がっていたが、勝浦ではどのような課題があると感じておられるだろうか。または変えてほしいことがあれば教えていただきたい。

【協議会からの回答】

●交付金の問題については、事務局員の時間外手当の在り方に関する議論を市と行っているので、改善に向けて進んでいるのではないかと思う。

●事務局員の雇用経費として、交付金の中に180万円という枠があるのだが、10年近くその金額は変わっていない。

●土日の行事も多いし、夜間の会議もあるが、費用弁償ということでボランティアが参加した時の交通費程度しか支出できていなかった。それはおかしいのではないかということで、市に予算の増額をお願いしているところである。

【会長からの協議会に対する質問】

協議会の活動予算として活用するために、自治会から拠出してもらうようなことはあっているのか。

【協議会からの回答】

●そのようなことは行っていない。

【会長からの協議会に対する質問】

収益事業は実施しているのか。

【協議会からの回答】

●収益事業はない。雑収入としてコピー代があるくらいである。

【委員からの協議会に対する質問】

勝浦地域は人口は少ないかもしれないが地域としてはとても広いと思う。お話を聞いているとマル勝まつりや運動会など、地域一体型で様々なことに取り組まれていると感じる。そういった中で、行事にはどのようなかたが参加しているのだろうか。子どもや孫がいる家庭は参加されると思うが、そうでない人はなかなか参加しないということもあるのではないだろうか。神興東地域でも課題になっているが、参加する人はいつも同じかただったりする。

いきいき健康サロンを見学させていただいたことがあるが、参加されるか

たは毎回ほとんど同じで歩いて来ることができる交流センターの近くに住んでいる人が中心で、遠い人は参加しにくいと伺った。神興東地域での課題なのだが、市は協議会も全市一斉防災訓練に主体的に取り組んでほしいと言うが、地域が広いので難しいところがある。勝浦も地域が広いので、似たような難しさはないのだろうか。

【協議会からの回答】

●元々勝浦は昔から地域と小学校の結び付きが強かった。マル勝まつりは郷づくりが始まって取り組んできた事業だが、運動会は地域と小学校が合同で開催するという草分け的な地域だった。

●私が30年ほど前にPTAの役員をしていた時、宗像市の吉武小学校から「学校だけでやっている運動会を地域と一緒にやりたい」ということで、視察に来られることもあった。

●運動会は子どもが通っているかどうかに関係なく、皆でどんちゃん騒ぎをしていた。しかし現在は以前よりも、保護者や祖父母の参加が中心になってきているようにも感じる。

●防災関係については、勝浦には消防団が2つある。塩浜区は勝浦ではなく津屋崎の海側や山側の地域と一緒に第3分団を構成しており、残りの5つの自治会は第4分団を構成して、20名の団員を集めるようにしている。

●防災訓練をする時は2次訓練を小学校の体育館で行うのだが、その時は消防団員が協力してくれて、消防署の職員と一緒にいろいろな訓練や説明をしてくれる。消防団は運動会の団体競技に参加してくれたり、マル勝まつりで消防車の体験乗車をしたりしてくれる。

【委員からの協議会に対する質問】

消防団のかたは地域のかたから認知されている存在になっているのだろうか。

【協議会からの回答】

●団服を着て参加するので、消防団であるということが認識できる。

●勝浦地域は広いのだが、6自治会は昔からある集落で、勝浦小学校も何十年も1学年1クラスだったことだったので、子どもたちのことも「どこの誰」と地域の人たちが分かっていた。それくらい的人数なので、子どもと保護者だけだと運動会が成り立たず、地域の地区対抗の運動会と一緒にあったという経緯がある。

●交通の便は非常に大きな問題になっている。以前はコミュニティバスが双方向で回っていたのだが、現在は一方向、即ち右回りだけになってしまって、非常に不便になった。そのため、いきいき健康サロンも参加しにくくなったという現状がある。

●集落の中の店舗もなくなってしまった。今あるのはセブンイレブンが1軒とあんずの里市の購買部があるだけで、買い物弱者が増えている。また、病院通いが不便になっている。

●郷づくりの中でも「デマンドバスを運行してはどうか」といったアイデアが出ているが、具体化はできていない。とにかくお年寄りの生活が不便にな

っているのは間違いない。

【委員からの協議会に対する質問】

勝浦地域の年齢構成のお話を聞いていたら、高齢化は今後も進んでいくと思うし、現場の担い手も減っていくと思う。10年20年先を見据えて、そのような状況に対して、今のうちにこのような手を打っておこうという道筋は立てておられるのだろうか。または、そのような手を打つことは難しいので、全市的な大きな視点で取り組んでいく必要があるのではないか、このような仕組みがあると助かるといった考えをお持ちであれば教えていただきたい。

【協議会からの回答】

- 解決策があれば、こちらの方からお尋ねしたい。
- 昔のようなピラミッド型や逆ピラミッド型のように段階的に人口が減っているのであれば分かりやすいが、私たちの世代になるとガクンと人口が減っている。自治会の役員もここまで年齢が下がったらもう一回りしないといけないという話が出ているし、小さな集落ではすでに自治会長を3回経験したという人もいる。そのように人口がどんどん減っている中で、担い手をどう探していくのかという大きな課題がある。
- 各自治会では少ない人数の中で役員を回していく必要があり、しかも仕事もしているというかたが多いので負担が掛かっている。
- 今後協議会で汗をかいていきたいと思っていることに敬老会や盆踊りがある。これらは自治会ごとに行われることが一般的だと思うが、郷づくり単位で集約して勝浦地域全体として事業ができれば自治会の負担軽減にもつながるのではないかと考えている。
- 例えば敬老事業を勝浦小学校の体育館で実施できるのではないだろうか。実際、津屋崎総区でも津屋崎中学校の体育館で敬老事業を行っているので、そのような形で勝浦郷づくりでも実施できたらと考えている。盆踊りも勝浦地域の夏祭りのような形で実施できたらと考えている。
- 宗像市のコミュニティでもそのような形で実施しているところがあるので、地域単位で夏祭りを実施して最後に総踊りという形で盆踊りを実施することで、自治会の負担も減るのではないかと思う。その代わり各自治会から補助として入っていただきたいとは思っている。
- 現実としては、私が住んでいる地区の自治会では随分前に敬老会や盆踊りを止めている。これは自治会の行事を極力減らしていこうという視点があるためである。協議会で敬老会や盆踊りを地域単位の行事として実施する形が10年前に実現できていれば継続できていたかもしれない。

【委員からの協議会に対する質問】

他の地域では自治会と郷づくりの取り組みが重なっていることがあり、郷づくりの必要性が分からないとの意見があった。勝浦では郷づくりという大きな役割に集約して行って、その必要性が増しているということが起こっているのではないだろうか。

【協議会からの回答】

●お見込みのとおりである。

【委員からの協議会に対する質問】

勝浦地域以外からの人、例えば福津市内の他の地域や市外の人に来てくれたら助かるというイメージはお持ちだろうか。

【協議会からの回答】

●事業によってはそのような人たちの協力が必要かもしれないが、今は勝浦地域内の人を対象にしている事業なので、現時点で必ずしも必要というわけではない。

【委員からの協議会に対する質問】

今は地域内の人材で回せているということか。

【協議会からの回答】

●お見込みのとおりである。郷育カレッジのふくつ散歩では観光協会のかたがお手伝いをしてくださったので、そのように外部の人に協力をお願いすることはある。ただし、これはあくまでも郷育推進課に属している事業で、協議会主催事業ではない。このような地域外の人に協力してもらって行う事業は実施していない。

●健康サロンについては包括支援センターにフォローに必ず入っていただいている。

●勝浦小学校で子どもから大人までいろいろな世代の人が話をする「トークフォークダンス」という活動をしている。

●勝浦の良さを対外的にPRするにはどのようにしていけばよいかということ話し合ったことがあった。

●その時、自分たちも勝浦にはたくさん良いところがあるのにそれを知らなかったもので、それをどう発信していけばいいのか一緒に考えていきたいということになった。そのためにはSNSや広報紙などの意見が出ていたが、対外的に勝浦の良さを発信していく時に、外部との連携は必要になっていくと思うし、お知恵を頂戴したい。

【委員からの意見】

●郷づくりの話に直接関係ないかもしれないが、地域おこし協力隊という制度がある。日本全国の過疎地域に地域おこし協力隊として素晴らしい人材が来て、賑わいが生まれているところがある。

●古賀市や宗像市にも地域おこし協力隊のかたがいらっしゃるのだが、福津市にはいない。福津市はそのような人材を活用できていないと思う。

【会長からの協議会に対する質問】

市役所が外部の人と協議会をつなげる仕組みをつくってほしいというお話があったが、このように外部の人につなげてもらって、その人にこのように活躍してほしいというイメージはあるだろうか。

【協議会からの回答】

●期待するところは、市の未来共創センターが機能することで、地域内の人

で勝浦に興味を持っているかたを協議会に紹介してもらって、一緒に活動するようになればと思っている。

●これは市の施策としてそのような仕組みを作してほしい。そうすることでこの協議会も活用したいと思うのではないか。

【会長からの意見】

●私も未来共創センターの役割は重要だと考えている。

●未来共創センターには「何かをやってみたい」という人たちが集まってくるので、そのような人たちと協議会をマッチングしていくことができればと考えている。このことは答申にも盛り込んでいきたい。

【協議会からの意見】

●共働推進会議で答申をまとめられる際に考えていただきたいことがある。

●郷づくりの今後の展望の見直しをすることが、いきなり市から話があり、天から降ってきたような形で始まった。その提案が事務局からあった時、「その進め方はおかしいのではないか。まずは郷づくりの代表者会議や現場の中から見直しを図って、必要であれば外部のかたの力を借りるといったような手続きが必要なのではないか」ということを申し上げた。

●しかし、そのままスタートし、2回目の代表者会議で事務局から議事録が出た際に、再度同じ話しをしたら、他の協議会のかたからも「そのやり方はおかしいのではないか」という意見が出て、このヒアリングが始まったのではないかと思っている。

●そういった意味では、共働推進会議というよりも一つの組織の見直しということであれば、進め方から検討してほしい。今回の答申を作成する過程においては少し瑕疵があったのではないかと思っている。

【会長からの意見】

●その経緯については申し訳ないと思っており、お詫び申し上げます。

●私たちも郷づくり基本構想の見直しにあたって、主役は現場の皆様であることはしっかりと認識しており、このような場を設けさせていただいている。

●最初の部分でボタンの掛け違いがあったことはお詫び申し上げますが、答申の作成にあたっても事前にご意見をいただけるような機会を設けさせていただきたいと考えている。

●共働推進会議の任務は皆様の活動をこのように変えてほしいということではなくて、皆様が活動を自由に、やりやすくしていくということが中心である。

●基本構想の見直しを行うからと言って、活動内容を大きく変えるということをするわけではないことをご理解いただきたい。

【協議会からの意見】

●共働推進会議には有識者のかたがたもたくさんおられるので、私からもお願いしたいことがある。

●これまで8つの地域を回られたと思うが、活動の内容についてはどこの地

域もそれぞれの特色を生かしながら活動を進めているので、それはそれで良いと思っているのだが、問題はその活動を担っていく人が不足している、担い手の高齢化が進んでいる、固定化している、後が続かないという人の問題がどこも共通している。

●これらは大きな問題であり、人の問題を解決していかないと、郷づくりは継続できないし、充実しないし、どんどん活動が下火になっていくと懸念している。

●一方でこれは非常に難しい問題でもあることを理解している。郷づくり活動が始まった時もそうだった。

●郷づくりの取組を進める時に目標にしたのが、鹿児島はやねだん地域で、それを目指して頑張ってもらいたいということで地域のかたがたにもお話ししていた。勝浦でも公民館長をされていたかたにお越しいただき、いろいろなお話をさせていただいた。

●やねだん地域の公民館長のかたは「地域づくりの主役は住民ではある。人を大切にしないと地域づくりはうまくいかない」とおっしゃった。その他にも「住民のかたがたにとって身近でメリットのある活動にしないといけない」「住民の郷づくりへの関心を高めることが必要である」「ボランティア活動だけでは限界があると思う。自分たちが活動してみて充実感などがなければ、活動は続かない」という話があった。

●館長のかたのお話を聞いて、全くそのとおりであると感じたと共に、これを実現していくことはかなり難しいと感じた。

●勝浦郷づくりでは少ない人材の中で、小学校や自治会長など様々な人たちと連携して一生懸命活動に取り組んでいるが、本当に地域の人たちが郷づくりの活動を身近に感じているのかということについては乖離がある。そのため、郷づくりが何かするなら私も行ってみようという思いになるまでには至っていない。

●その辺りを勝浦だけの問題として捉えるのではなく、いろいろな知恵を出して行って、提言していただき、郷づくりがずっと続いていく取組にしていきたい。

●交付金の原資は税金のため制限があって当たり前であることは理解しているが、協議会に関わってみると交付金に制限をかけすぎると自主性が損なわれてしまうと感じる。

●自主財源を稼ぐ方法は少ないと思うが、制約を緩めると共に、地域の中でしっかり話し合ったうえで用途は協議会に任せるといった大きな転換も必要なのではないだろうか。

●協議会活動の内容も一律である必要はないのではないかと。

●勝浦では高齢者の交通手段の確保が非常に大きな問題になっているので、勝浦の活動はそれに特化しようということがあっても良いと考えるし、協議会によっては子育て支援に特化するなど、取り組むことも地域課題に応じた重点施策のようなものに特化していかないと、どこも一律で同じことをしても難しいのではないだろうか。

●これらのような思い切った改革をしていかないと郷づくり活動も続いていけないのではないかと。そのために共働推進会議の皆さんには良い知恵を出していただきたい。

【会長からの意見】

●貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。先ほど後半のご意見にもあったが「事業に関する選択と集中」と「交付金の自由度を高める」ということは答申に盛り込んでいきたいと考えている。

●前半のご意見にある「住民を幸せにしていきながら、郷づくりの意味を伝えていく。しかし他方で高齢化が進んでいて、マンパワーが足りない」ということにどうアプローチをしていくかということ、先ほど外部人材の話もあったが、大学などとの連携も図っていくと良いのではないかと思う。

●神奈川県の実鶴町では、なかなか地域住民に地域づくりの機運が高まっていかないということで、ある取り組みが始まった。それは「実鶴カメラ」という取組みで、カメラのメーカーと組んで行っている。

●「実鶴カメラ」という取組はメーカーからカメラ10台を無償で貸してもらい、住民10人で1チームを組んでもらって、地域の地場産業に関わっているかたや農業のかた、地域づくりに取り組んでいるかたのところに行ってもらって風景の写真を撮って話しを聞くというものである。

●写真を撮った後は、皆で集まって、全国の専門家とズームなどをつないで写真の論評をしてもらっている。その場には取材を受けた人にも来てもらって、自分がどのように見られているのかということを知ることができる。

●その場ではいろいろな人から「すごい」と言ってもらえるので、自分たちの活動や生業の意味をそこで改めて気が付くことができるし、取材をした側も「こんなにすごい人たちがいるのだ」ということに気付く。

●それに気付くことで、普段何気なく通り過ぎていた商店街のお店でも、そこのお店のおでんの背景を知ることによってファンになり、そこを目掛けて人が集まってきて人だかりができるので、他の人たちも集まって来るといえる。

●カメラや動画を使って人と人をつないで、お互いに勇気もらい合うような取組はいろいろなところで行われつつあるのだが、これを地域で始めるのはなかなか難しいと思うので、大学にあるカメラ部やサークルなどと連携していくと良いのではないだろうか。

●地域の良い所やすごい人の所を訪ね歩くのは若い人も参加しやすいと思うので、関心を持ってくれる可能性が高い。そのような活動を通じて、多くの人に活動の意味を伝えられたら良いのではないかと思う。

●高齢化が進んでいき活動が難しくなっていく中で、外部の人たちを捕まえて、一緒になって何かをやっていける仕組みができると良いのではないかと思う。

●そうするために未来共創センターも関わっていければ、地域がもっと元気になるといえるし、協議会の皆さんの活動のエネルギーにもなっていくのではないかと思う。

【協議会からの意見】

●広報委員会で作成したカレンダーがある。これは令和4年度に初めて実施したものだが、郷づくり基本構想の中に「郷づくりを全ての人に知ってもらおう」という目標があるので、勝浦郷づくり地域の全世帯に配って、勝浦のP

Rに取り組んだ。

●事務局側が各協議会にこのように基本構想に掲げてあるような目標や課題解決に関わるヒントがあるということに気付いてほしい。そして市で予算を確保し、各地域で横展開ができるようにしてほしい。

●例えば、カレンダーを作るのであれば、それぞれの協議会で地域のPRをする写真を集めてほしい、それを印刷する予算は市の方で持つといったように、市がもう一皮剥けた取組みを進めていく必要があるということを提案したい。

【会長からの意見】

●私も各郷づくりに、横展開していくと地域が盛り上がると思う取組みがあると思っている。

●それを広げていくために交付金とは別個に、強制にならない自由で選択の余地がある仕掛けができないか考えていきたいと思っている。

5. 地域視察終了のあいさつ

会長がお礼を述べた。